



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより 第17巻4号

(季刊誌)

2015年10月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉 <http://www.nishi-ganka.or.jp>

眼科最新治療

るいのうびくうふんごうじゅつ レーザーを使った 涙嚢鼻腔吻合術(DCR)鼻内法

当院では「流涙」でお困りの患者さんには、チューブ挿入術を。挿入不可能な場合は、レーザー涙嚢鼻腔吻合術(DCR)鼻内法を行っています。鼻涙管に強度な閉塞がある、長期にわたり閉塞している、閉塞により涙嚢炎を繰り返し発症する等の症状のある人に有効な治療法です。鼻涙管内視鏡と鼻腔内視鏡で観察し

ながらレーザーを用いて閉塞した鼻涙管を鼻腔内に開口させ、つまった涙の流れを良くします。従来の方法より、より安全性・確実性の高い手術です。

この治療法は「眼科」「耳鼻科」両方の知識を伴う特殊な手術手技です。現在この手術を施行している施設・医師は全国でもまだ少数です。

もうまくしょうしたいしゅじゅつ 網膜硝子体手術

代表的な網膜硝子体疾患は、網膜・視神経乳頭からの出血が硝子体中に広がる「硝子体出血」「硝子体混濁」、網膜を牽引する「網膜剥離」、糖尿病の合併症である「糖尿病網膜症」、黄斑部に穴が開く「黄斑円孔」、黄斑部に薄い膜が張ってしまう「黄斑上膜」、動脈硬化等が原因で出血をきたす「網膜静脈分枝閉塞症」などがあります。

当院では25ゲージ(わずか0.5ミリ)の細い器具を使用する最新の「無縫合小切開硝子体手術」を。また、最新鋭機器コンステレーション(2台)の硝子体カッ

ター(7500回転/分 スピード)を導入しより高い安全性を追求した手術手技を行っております。硝子体出血や硝子体混濁は、光軸部の混濁を除去することで視力は改善します。眼内炎も早期に感染源を取り除き、抗生剤・抗菌剤による洗浄を行う事で視力を救う事ができます。

硝子体手術は眼科領域で高度な治療分野の一つです。近年の手術器具の発達や手術手技の進歩により比較的安全に手術ができるようになりました。当院では最新鋭の手術設備と熟練した専門医で、安全・確実な手術を行っております。

フェムトセカンドレーザー 白内障手術

世界最先端の「フェムトセカンドレーザー白内障手術」を白内障手術に導入して3年が過ぎました。水晶体囊の前面を真円かつ中心に切除することが可能で、眼内レンズを水晶体囊の中心に固定でき、レンズの偏位や傾きを最小限にすることができます。水晶体の分割も可能で

超音波乳化のエネルギーを大幅に低減し限りなくゼロに近づけ、眼の負担を少なくする手術方法をとっています。より質の高い良好な視機能の獲得が可能です。日本では厚生労働省にまだ承認されていませんので「自費診療」となります。

プレミアムレンズ 《老視矯正眼内レンズ》

多焦点眼内レンズ

白内障手術に使用する眼内レンズには、「単焦点眼内レンズ」と「多焦点眼内レンズ」があります。

単焦点眼内レンズはある一定の距離にピントがあう眼内レンズです。

多焦点眼内レンズには、遠くにも近くにもピントが合う2重焦点眼内レンズと2重焦点眼内レンズを更に進化させ、中間距離(50cm~1m)にもピントが合

う3重焦点眼内レンズの2種類があります。2重焦点眼内レンズは「先進医療」として厚生労働省に承認されていますが、3重焦点眼内レンズ(ベルギー製)は先進医療として日本ではまだ承認されていませんので、術前術後の診察・検査・手術代(レンズ代含む)に関わる治療代は全て「自費診療」となります。

アドオン Add-On 追加挿入型「多焦点(遠近両用)眼内レンズ」

Add-On 眼内レンズは視機能向上のために開発された「二枚重ね挿入専用」の眼内レンズです。すでに白内障手術が済んでおり、挿入されている単焦点眼内レンズの上に、更にもう1枚 多焦点(2重焦点)眼内レンズ Add-On (ドイツ製)

を追加挿入することで「遠くにも近くにも」ピントが合うようになります。3重焦点眼内レンズと同様に日本では先進医療として厚生労働省にまだ承認されていませんので Add-On に関わる治療代は全て「自費診療」となります。

詳しくはスタッフまでお問い合わせください